

温暖化防止

ストリート

KIKO NETWORK 気候ネットワーク

第12号

2005.3.1

気候ネットワーク

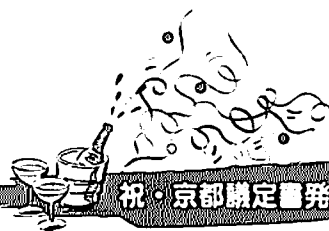
～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・報告「京都議定書発効キャンペーン」…P.1
- ・団体紹介
「中部リサイクル運動市民の会」…P.2
- ・温暖化の影響・こんなことできる…P.3
- ・地域温暖化防止研究会の紹介・
Webサイト紹介・ボランティアの…P.4

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止ストリート」を発行しています。



祝・京都議定書発効！

報告

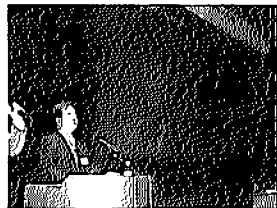
京都議定書発効キャンペーン

～温暖化防止国際制度の幕開け～

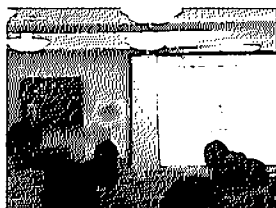


2/12 : CASA主催シンポジウム

京都議定書の発効にあわせて、温暖化問題に取り組んできたNGOが連携して「京都議定書発効キャンペーン～温暖化防止国際制度の幕開け～」を実施しました。気候ネットワークは、2月16日に発効記念パレード「さあ、すすめよう！温暖化防止」とNGO集会「進もう京都議定書とともに」を実施しました。その他にも、シンポジウムや前夜祭等が行われ、議定書発効を祝うと同時に、温暖化対策を確実にそして大幅に進めなければならないことをアピールし、新たな温暖化防止の幕開けとなりました。



2/11 : ISEP主催シンポジウム



2/15 : FoEJapan主催国際WS



2/15 : WWFジャパン展示



2/16 : 気候ネットワーク主催パレード

気候ネットワーク主催イベント

2/5
大阪

シンポジウム「進む気候変動ー
京都議定書発効の意義と課題」
【CASA】

2/12
東京

シンポジウム
「京都議定書、発効！」
【CASA】

2/15
東京

京都議定書発効記念
前夜祭【WWFジャパン】

2/15
2/16
京都

カウントダウンイベント等
【ソーラージェネレーション】

2/11
京都

国際シンポジウム「自然エ
ネルギー2005：ボンから京
都へ、そして中国へ」【ISEP】

2/15
東京

国際ワークショップ「長
期的な国際温暖化対策の
枠組み」【FoEジャパン】

2/16
東京

ソニースクエア企画
【WWFジャパン】

2/16
京都

京都議定書発効記念イベント
【気候ネットワーク】

紹介者

今回は、名古屋で活動している、『中部リサイクル運動市民の会』の紹介です。代表理事の萩原さんから紹介していただきました。

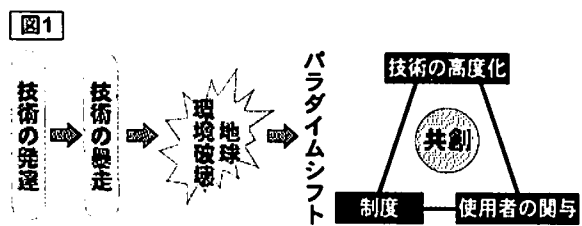


萩原 寧之さん

中部リサイクル運動市民の会は設立当初から、1人から始められること、個人にこだわり続けてきました。また地域に根ざした活動であることもこだわり続けてきました。

今日現在のキャッチフレーズは、「地球というジグソーパズルの1ピースは私の住むまちです」。そのまちに住んでいる人たちが「自分たちのまちは自分たちで担う」その成功事例が各地で広がっていくことをイメージしています。また市民＝個人にこだわるのには、次のような視点があります。図1のように地球環境破壊は技術の発達が発達の暴走となり進行。その解決には技術のコントロール技術が必要となります。そのコントロールには方法は二つ。

- (1) 法や制度を変える
- (2) 消費者が製品やサービスに意思をもって選択。ということは、A) 市民としては、個人としてライフスタイルを変えていく。B) 企業に対しては、個人は技術をより持続可能性のある方向へ消費の力で変えていく。C) 行政に対しては制度を変えるために関わる。つまり個人の力はライフスタイルの変化のみでなく、企業や行政＝社会構造の源であると。



◆当事者意識

NPOの生産物は人です。今までは市民は消費者として行政や企業の社会サービスの受け手となっていました。「自分たちのまちは自分たちで担う」という人をどのように起こしていけるかを模索しています。例えば、市民参加型で一般廃棄物処理基本計画づくりや環境基本計画づくり、また市民の手による市民への環境アドバイザーシステム、環境学習施設の計画づくりと運営を市民で行うなどです。

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

今回の団体は

地域と市民にこだわる温暖化防止

特定非営利活動法人

中部リサイクル運動市民の会

◆可視化する

市民が当事者意識・自発性をもつためには「気づき」の誘発が必要です。そのためには心のレベルに届く情報が必要です。現在取り組んでいることに「可視化」システムがあります。「情報」とはみえないものをみえるようにすることです。たとえば、買い物のときにレジ袋を1枚断ったとします。ある日にその行動をした人がこのまちに1万人いて、レジ袋1枚のCO2換算は100グラムですから、もし森をつくったとすれば何本の木を植えたことになるというように、市民がみえるようになる表現、システムを構築しようとしています。

◆がんばった人が報われる

それは「エコポイント」という仕組みのなかで生かそうとしています。環境に良いことをするとポイントが発生します。環境商品を買ったり、レジ袋を断ったり、公共交通機関に乗るなどです。すでにスーパー店頭でのシステム実験や名古屋市での地下鉄でのITシステムを使っての実験は終了しました。現在の通貨システムでは表現できない「環境がよくなる通貨」を社会化できないかと考えています。またCO2で換算できるような行為は、排出量取引の考えを導入し、企業に購入してもらうことも考えています。

◆みえない敵

1999年2月、名古屋市がごみの非常事態宣言をし、2年間で23%のごみ減量を達成しました。そのことで行政や市民に大きな変化がありました。ただ、CO2や温暖化はさらにハードルが高いのです。名古屋市は今公共交通機関6割、マイカー4割をめざしています。関西、関東では公共交通が7割、マイカーが3割ですが、名古屋はまったくの逆です。マイカーでの移動の方が早くて安く快適なまちでは、個人レベルの行動に限界があります。都市計画や制度を変えないと達成できません。そのためには交通のためのムーブメントが必要となります。道のりは長いようですが。

日本各地の

温暖化の影響



活動紹介

日本各地で見られる、温暖化の兆候や影響に関する情報を掲載していきます。今回は組織の紹介です。

「フォーラム 気候の危機」

「フォーラム 気候の危機」は京都議定書発効を記念して、2005年2月16日の午後2時に、東京目黒の東京都庭園美術館ホールで発足した。

代表は、COP3議長の木本浩さんと気象学の権威吉野正敏博士である。当日は、国立環境研究所の西岡秀三さんのネットワークもあって、世界最速のコンピューターを駆使した世界気象モデルでの台風発生予測や気象の変化を専門家が解説。生物気象学の研究者・温暖化の影響を地球規模で究明する方、農業や食料問題の専門家、海流の専門家。温暖化と保健を関連づけて研究している方、最後には住明正東大気候センターの締めくくりまで、専門家と市民・企業が応答を繰り返す珍しいスタイルです。



市民の方は、南アルプスの自然観察者、

香川県の蛾の研究者で昨年初めて台風水害に襲われた方、宮城県の漁業体験リーダー、茨城県の有機農業家、神奈川県湘南でウィンドサーフィンスクールを運営するサーファーなどが次々に体験に基づいた「おかしなこと」を報告。企業の参加も目立ったが、損保ジャパン、伊藤忠の発言が目をつけた。



また、メインの報告をしたのはNHKでお馴染みの村山貢司さん（気象キャスター）で、気象予報士の方々がチラホラ参加しているのが注目された。

さて、同フォーラムは交流組織として動き出すが、焦点は生物や季節の変化など市民が身近に感じている事柄を、専門家と一緒に検討していく緩やかな会を目指しており、今後の活動が期待される。

須田春海（気候ネットワーク副代表、フォーラム気候の危機幹事）

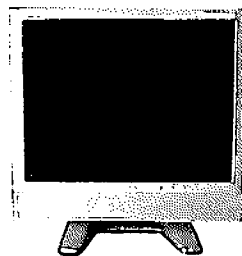
温暖化防止
こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」できる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは『省エネ型のテレビは？』

平均的な日本の家庭の消費電力量の9.6%を占めるテレビ（資源エネルギー庁調べ）の購入時のポイントをまとめていただきました。



① 定格消費電力で判断

現在国の省エネ基準はブラウン管テレビのみに設定されており、薄型テレビには省エネ基準がありません（2005年度中に導入予定）。そこで、省エネ製品かどうかは各社のカタログ等に記載されている定格消費電力で判断することになります。「GPNデータベース（<http://gpn-db.mediapress-net.com/gpn-db/index.hgh>）」をみると、小さい画面の製品では液晶テレビの消費電力が少ないことがわかります。

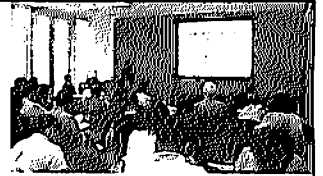
② できれば小さいテレビを

小型では省エネである液晶テレビも、40インチ以上になるとプラズマと大差がなくなります。テレビの省エネのためには、やはり小さいテレビを買うことです（観ないのが一番省エネですが・・・）。どうしても40インチ以上の大型が欲しい方には、リアプロジェクションテレビが消費電力が相対的に少なくおすすめです。今のところ家電店ではほとんど見かけませんが、エプソン、ソニーなどが国内販売しています。

ひのでやエコライフ研究所 伊東真吾

このコーナーでは、気候ネットワークのプロジェクトや研究会、キャンペーンなどの紹介をしていきます。

気候ネットワークの活動紹介



研究会が実施したセミナーの様子

「地域温暖化防止研究会」

地域温暖化防止研究会は、地域における温暖化対策に関する調査・研究を行っています。

研究会は月2回のペースで開催しており、自治体政策、交通、EMS、省エネルギー、自然エネルギーなどといった幅広い分野を統合的に捉え、市民の立場から有効な施策を研究し提言を行ってきました。昨年は、都道府県地球温暖化防止活動推進センターと地球温暖化対策地域協議会の活動の現状に関する調査を行いました。

今年は、地域における温暖化防止関係の条例・計画・

ビジョンやパートナーシップによる実践活動について引き続き調査していくことに加え、温暖化対策の実質的な削減効果や費用についても調べていく予定です。国内外の先進事例や自治体の制度などが、どの程度の削減につながり、また波及効果もあるかどうか、ということを中心に調査していきます。より効果的な温暖化対策をすすめるための参考となる情報をまとめ、「地域の温暖化対策事例・提言集」を作成する予定です。

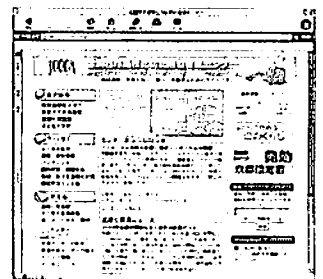
地域温暖化防止研究会 佐藤崇太

おすすめWebサイトの紹介です。

Webサイトの紹介

全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA)

「温暖化についての話をしてほしい」と言われる機会ありませんか？そんな時にどうすれば分かり易くかつ印象的に温暖化問題を伝えることができるのか、あたまを悩ませたことのある方も多いのではないのでしょうか。そんな時に役立つのが「全国地球温暖化防止活動推進センター」のWebサイトです。ここでは、温暖化に関する幅広い情報が「まず知る」「もっと知る」「教える」などの形で目的ごとに整理されています。特に「教える」のページでは、教材作成や広報活動などに使うことのできる図表や温暖化に関する写真が数多く掲載されています。写真や図表をうまく使うことで、より効果的に伝えることが出来るようになるはずです。



<<http://www.jccca.org/>>

ボランティアの声



気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。
そのボランティアからのコメント！

東京ボランティア 本西数馬さん

現在は主に、企業などの事業所別のエネルギー消費量データを各地方経済産業局に開示調求したり、そのデータを整理することのお手伝いをしています。今後の対策を進めるうえで重要なデータになることから、気を抜かずに頑張っています。私は4月から社会人になるので、気候ネットワークでのボランティア経験を何かに役立てられればと思います。

編集後記

2月16日の京都議定書発効記念パレード当日は、小雨模様で、参加者の数がとても心配でした。遠方から来て下さったり、NGOの仲間も趣向を凝らして参加して下さったりと、予想以上の参加があり、とても楽しいパレードとなりました。政策提言や計画づくりと同様に、パレードが大事なNGO活動だということを改めて認識しました。(おかゆ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田啓海 / 事務局長：田浦健明

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」12号
2005年3月1日発行 (隔月1日発行)
編集・DTP: 岡優子・豊田陽介

京都事務所 (本拠)
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305
TEL : 075-254-1011 FAX : 075-254-1012
E-mail : kikonet@jca.apc.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウツドフィールド2F
TEL : 03-3263-9210 FAX : 03-3263-9463
E-mail : kikoitko@jca.apc.org

本誌100%の再生紙に大豆インクを使用し、電力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694 (加入者名：気候ネットワーク)
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852 (気候ネットワーク)